

せん太のワークシート

高松市のNPO法人が、香川県内のうどん店をマイボトルの給水スポットにする運動に取り組んでいます。記事を読み、質問に答えましょう。

海ごみの多数を占めるペットボトルの消費削減に向け、NPO法人「アーキペラゴ」(高松市塩上町)が香川県内のうどん店を給水スポットにする運動に取り組んでいる。2018年に開始したマイボトルの利用を促す運動で、約600店といわれるうどん店のうち、約80店が登録。同法人は、22年に開かれる瀬戸内国際芸術祭(瀬戸芸)を視野に「郷土の食と環境保護を組み合わせた『香川モデル』の取り組みを世界に発信したい」としている。「マイボトルを携行していると、昼ごろに『水切れ』する人が多い。県民の昼食処として親しまれているうどん店は、給水スポットとして最適」と同法人の森田桂治副理事長(51)は力を込

マイボトル うどん店で給水

マイボトル

める。給水スポットの目印は、アーキペラゴが登録店に送付した「マイボトルOK!」と書かれたポスターやステッカー。店内の冷水機からマイボトルへ誰でも無料で給水ができる。多くの店舗がセルフ方式を採用していることから、給水を依頼することへの抵抗感を減らしてくれらるという。登録第1号は「ひさ枝」(高松市郷東町)。「登録するだけで、店の負担はほとんどない。海ごみ削減に貢献できるし、給水した人がうどんを食べべてくれることも多い。いいことづくめ」と久枝了店長(51)は笑う。アーキペラゴは、22年度までに登録店を約200店まで増やすことを目指しており、瀬戸芸などで香川

高松のNPO 海ごみ減へ運動



うどん店「ひさ枝」でマイボトルに給水する利用者(アーキペラゴ提供)

を訪れる国内外の観光客にマイボトル利用を発信する予定。森田副理事長は「会場とアーキペラゴ(087-813-11001)」。企画を考えたい」と話している。(大石哲也)

Q1



高松市のNPO法人は、なぜマイボトルの利用を促す運動に取り組んでいるのでしょうか。第1段落(リード)を参考に答えましょう。

Q2



このNPO法人によると、うどん店が給水スポットとして最適な理由は何でしょうか。第2、3段落から読み取りましょう。

Q3



マイボトルを持ち歩く人が増えています。皆さんの身の回りで給水スポットだと便利だと思うのはどんな場所でしょうか。考えてみましょう。

★の数は問題の難易度を表しています。



「うどん県」香川らしい取り組みだね